

(別紙様式)

(A3判横)

# 令和6年度 学校自己評価システムシート (県立豊岡高等学校) W10

目指す学校像	地域に根ざし豊かな人間性を培う進学校
--------	--------------------

重点目標	1 学力向上に向け、授業改善に取り組む 2 個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させる 3 基本的な生活習慣の改善を図るとともに生徒の自律性を養う 4 生徒会行事・部活動を充実させ、主体的な学校生活に取り組みさせる 5 開かれた学校づくりに取り組む
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	13名

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒が授業に臨む姿勢は、良好であるが、進路実現に向けて日々学習に取り組んでいる生徒がいる一方、その取り組みが不十分である生徒も見受けられる。進路実現に向けたさらなる学力向上のため、授業、豊高ゼミ、進学講習、家庭学習などにおける、「主体的・対話的で深い学び」の定着と、「豊高手帳」の活用を通じた、自己管理、自学自習の確立が課題である。	授業の予習復習を含めた家庭学習の定着や、時間の有効活用を促す。	①生徒の積極的な学習への取り組みを一層促し、学力の向上を図り、それが進路実現につながるように、教材研究、授業改善、研修等を行い、指導力を向上させる。 ②「豊高手帳」の積極的な活用による自己管理を通して、家庭学習の時間を確保し、定着を図る。 ③授業3ヶ条が学校(生活)に定着するよう、生徒に呼びかける。	①生徒の積極的な取り組みを促すような指導力向上が見られたか。 ②「豊高手帳」を活用し、時間管理・自己管理ができたか。 ③授業3ヶ条の励行を生徒に呼びかけたか。	目標を概ね達成できた。 ①ICT活用の授業実践や、協調学習・グループワーク等を通じた「主体的対話的で深い学び」を実現するための試みが行われた。 ②「豊高手帳」に学習時間、定期考査結果、反省等を記録させ、自己管理を促した。担任を中心に、手帳を日々の指導に生かした。 ③授業3ヶ条の励行を教室掲示、担任、集会等を通して働きかけた。	B	生徒がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められる。また引き続き自己管理を促すと共に、積極的な自学自習や家庭学習の時間を増やす工夫も必要である。
2	生徒の進路希望は多岐にわたる。また、受験方法も多種多様になった。今年度から新課程での入試が始まる。生徒の進路実現に向けた進路指導を行うためには、的確な進路情報の収集と集約・発信・共有が必要である。大学・専門学校・就職など生徒の様々な進路希望に対応した、きめ細やかな進路指導の充実が課題である。	生徒の進路実現に向け、進路希望に合わせた継続的な指導を行うとともに、教職員の指導力の向上を図る。	①生徒に対して適切なガイダンスや進路行事を実施するとともに、保護者に対しても説明会を行う。さらに職員向けの研修会も実施し、情報を共有する。 ②豊高ゼミやその他の進学講習など計画的に実施する。 ③研修会・研究会への参加を通して、進路情報等を収集・整理し、全職員に情報を共有し、進路指導に生かす。	①要点を絞った効果的なガイダンスや進路行事、保護者説明会、職員研修が実施できたか。 ②進学講習等が計画的に実施し、生徒への意識付けができたか。 ③各種研修会・研究会により進路情報を収集し、指導に生かすことができたか。	目標がほぼ達成できた。 ①各年次で進路ガイダンス等の実施ができた。また1、2年次で国公立ガイダンスを再開することができた。大学調べや学習計画の立て方の指導など、タブレットを利用した活動が増えた。今年度もPTA 大学見学会を実施することができた。 ②豊ゼミや進学講習を年間通じて計画的に実施できた。進学講習の受講者は減少傾向である。しかし、少数でも丁寧な指導が行われている。 ③大学説明会への参加や、ベネッセ等の入試研究会に参加し、得られた情報を生徒向け各種ガイダンスや保護者会、進路だより等を通して情報提供することができた。	A	①来年度も引き続き要点を絞ったガイダンスを効率よく実施する。 ②各種進学講習を生徒が積極的に参加できるよう計画的に実施していく。様々な機会を通して学力向上の意識付けをおこなう。タブレットを用いた学習コンテンツの利用法の事例を集める。 ③令和8年度入試の動向を注視し、積極的に情報収集活動に努める。
3	学校全体として、生徒の様子や態度は落ち着きがあるが、教員の目の行き届かない場面における規範意識が低い生徒もいる。今後の課題としては、教員の指示や目がなくても生徒自ら律する力を様々な面で養うことである。	生徒の状況を常に把握し、現状を踏まえた上で適切な指導を行う。また、教職員全体の共通理解を深め、継続的な指導を実践する。生徒が安心して学校生活を送れるよう環境を整備する。	①朝の登校指導を始め様々な場面において、生徒の様子をしっかり観察し情報の収集に努め、実態を正確に把握する。 ②スクールカウンセラーや養護教諭、担任との情報共有に努め、適切で細やかな指導を行う。 ③全職員で指導方針を共有し、共通理解のもと指導を実践する。	①情報収集を行い、現状を的確に認識できたか。 ②適切な情報交換ができ、生徒への指導がうまくできたか。 ③個々の生徒に応じた対応を行い、自律を促す支援が行えたか。	目標をほぼ達成できた。 ①朝の登校指導や校内巡回を通じて生徒の状況を常に把握することができた。 ②情報交換を行い各方面との連携を図り、適切な指導が行えた。 ③年度当初に生徒指導方針を提案し全職員の共通理解を促した。年次・担任・部顧問などと連携し、個々の指導・支援を行い、必要に応じて職員全体に報告し情報を共有することができた。	A	指導方針についてのさらなる共通理解が課題である。 懲戒指導には至らないものの生徒間のトラブルはあるので、特に SNS やスマートフォンの使用に関しては継続的な指導、注意喚起を行う必要がある。 令和8年度入学生以降の制服の検討や校則の点検、見直しを行う必要がある
4	コロナ禍で途絶えた生徒会活動を戻していかねばならないが、以前の形にとらわれることなく新たな生徒会活動を実施していくにはどうすべきかということが課題である。この課題を克服していく過程で、生徒会役員が生徒全体の代表として学校生活上の課題を見出し、その改善に向けて協働して努力できるようにすることが課題である。	豊高祭等、生徒会行事を円滑に運営し、現状の豊高生に即した新たな実施方法を模索していく。そして、生徒会役員が学校生活上の課題を自ら見出し、学校生活の改善・向上を目指していくように促す。	①生徒会行事の実施方法については、生徒の要望を吸い上げ、前年踏襲にとらわれことなく管理職・保健環境部と協議しながら、生徒が最も達成感を得られるように進めていく。 ②生徒会役員が、生徒の要望を吸い上げていくなかで学校生活上の課題を見出し、その改善に向けて努力し、「自分たちの力で学校がよりよくなった」という実感をもたせることができるようにする。	①豊高祭・球技大会等、生徒会行事を生徒が主体となって実施できたか。 ②生徒会役員が自ら学校生活上の諸問題から課題を見出し、学校生活の改善・向上をめざすことができたか。	①制限緩和に伴い、豊高祭や球技大会、生徒会選挙など、生徒会行事をコロナ前の規模と実施方法で行うことができた。 ②校内に意見箱を設置し、生徒からの意見を吸収し、学校生活の改善・向上に向けて努力することができた。	A	生徒会行事をコロナ前の規模と実施方法で行えるように努力し、さらなる改善を行うことが出来た。 また、生徒のさまざまな意見を吸収し、学校生活の改善・向上に向けて、具体的な行動をおこしていきたい。
5	PTA活動は、概ね通常体制に戻りつつある。本部役員を中心として、各種行事も従来通り行われ、活気を見せ始めている一方、一般保護者の興味・関心度は、決して高いものではないことなど、課題も多く残っていることも事実である。	定期的に行われている各種行事への一般保護者の参加率	①各種委員会との連絡を密にすることで内容の精選と充実を図る。 ②一般保護者に対するアナウンス(メール配信やHPの活用など)を充実させる。	①各種行事において、周到な打ち合わせと行事の特性を踏まえた上での提案がなされていたか。 ②よりタイムリーな情報提供ができたか。	目標を概ね達成できた。 ①周到な打ち合わせの下、全ての行事を滞りなく運営・実施することができた。 ②HPにPTA・後援会のページを追加などこれまでに以上に活動状況を発信することができた。	A	本部会・理事会などについては、通常体制に戻り、これまで以上に活発な活動が行われているが、各種行事の参加率からみても一般保護者との温度差は否めなく、今後に向けての大きな課題となっている。

学校関係者評価
実施日 令和7年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりもタブレット端末の活用機会が増えているのは良いこと。更なる効果的な活用を進めていただきたい。</li> <li>・「豊高手帳」の活用指導は難しいと思うが、良い物なので少しでも活用が進むよう指導に工夫をしていただきたい。</li> <li>・コロナ以降、安易に欠席する生徒への対応は中学校でも同様の課題。学習指導と生活指導の両面で工夫が求められる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に昨年度より進学実績が上がっている。入学時からの計画的で継続的な進路指導を各年次と歩みを合わせて行ってきた成果であろう。</li> <li>・各種進学講習は豊岡高校の強みであるから引き続き丁寧で質の高い指導を行っていただきたい。</li> <li>・タブレットを用いた学習コンテンツを有効利用すると良い。どのように用いているのか、どのような成果や効果が出ているのか、確認するとよい。</li> <li>・生徒や保護者への進路情報の提供は大切。引き続き情報収集と研究に努めていただき、有益で的確な情報提供をお願いしたい。</li> <li>・入学から卒業まで計画的、継続的に進路指導が行われている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導や校内巡回での先生方による生徒の見守りは、生徒の落ち着きと個別の生徒への指導に生かされている。</li> <li>・困難を抱える生徒や保護者には SC や養護教諭、年次団の先生が寄り添い、課題解決に向けてよく連携している。</li> <li>・生徒からの要望を受けた防寒着の基準緩和は、前向きな校則見直しとして評価できる</li> <li>・SNS やスマートフォンの使用については中高で継続的な指導が必要。中高での連携を進めてはどうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校 HP は外部の方々にも豊岡高校を理解してもらう重要なツール。HP での学校情報の積極的な発信をしていただきたい。生徒にも学校 HP をよく見てもらい、情報発信に関わってもらいたい。</li> <li>・各種生徒会行事を生徒が主体的に企画し行動して、過去の踏襲にとどまらずに、コロナ前と同規模で行ったことは素晴らしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活気ある PTA 本部役員が活動を牽引し、各種行事もコロナ前の活発な状況に戻ったことは素晴らしい。</li> <li>・PTA 活動に消極的な保護者がいることに関して、小学校では PTA 組織はなく各種行事はボランティア制で行われている。中学校では PTA 加入率 6 割。任意団体としていかに活動を継続できるか知恵を絞る必要がある。</li> </ul>